

# 運航基準

平成 2 9 年 4 月 1 日  
日南市

## 目 次

第 1 章 目的

第 2 章 運航の可否判断

第 3 章 船舶の航行

## 第1章 目 的

(目的)

第1条 この基準は、安全管理規程に基づき、大島～目井津間航路及び大島周遊航路の船舶の運航に関する基準を明確にし、もって航海の安全を確保することを目的とする。

## 第2章 運航の可否判断

(発航の可否判断)

第2条 船長は、発航前に運航の可否判断を行い、発航地港内の気象・海象が次に掲げる条件の一に達していると認めるときは、発航を中止しなければならない。

港名 \ 気象・海象	風速	波高	視程
目井津港	10 m/s 以上	1 m 以上	300 m 以下

2 船長は、前項の規定に基づき発航の中止を決定したときは、旅客の下船、保船措置その他の適切な措置をとらなければならない。

(基準航行の可否判断)

第3条 船長は、周囲の気象・海象（視程を含む）に関する情報を確認し、基準航行を継続した場合、船体の動揺等により安全な運航が困難となるおそれがあると認めるとき又は周囲の視程が300m以下となったときは、基準航行を中止し、減速、適宜の変針、反転等の適切な措置をとらなければならない。

(入港の可否判断)

第4条 船長は、入港予定港内の気象・海象に関する情報を確認し、次に掲げる条件の一に達していると認めるときは、入港を中止し、適宜の海域での錨泊、抜港、臨時寄港その他の適切な措置をとらなければならない。



速力区分	速力	毎分機関回転数
最微速	5. 0 ノット	6 0 0 rpm
微 速	7. 0 ノット	9 0 0 rpm
半 速	1 0. 5 ノット	1, 5 0 0 rpm
航海速力	1 8. 0 ノット	2, 2 0 0 rpm

2 船長は、速力基準表を船内に掲示しなければならない。

(特定航法)

第 8 条 常用基準経路を航行するにあたっての各港における特定航法は特に定めない。

(連絡方法)

第 9 条 運航管理者（船長）と安全統括管理者との連絡は、次の方法による。

携帯電話

衛星携帯電話（090-3023-3023）

(機器点検)

第 10 条 船長は入港着岸前等入港地の状況に応じ安全な海域において、機関の後進、舵等の点検を実施する。一日に何度も入出港を繰り返す場合も同様である。

(記録)

第 11 条 運航管理者（船長）は、安全統括管理者と基準航路の変更に関して協議を行った場合は、その内容を日誌に記録するものとする。